

黒田雅史社長 新年のご挨拶 (ふえろ～)



新年明けましておめでとうございます。

皆様に於かれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃よりイチネングループ各社にご支援賜りまして感謝申し上げます。

世界経済は、債務危機の影響でヨーロッパ景気が低迷しており、中国の景気も減速、アメリカでは住宅市場の回復が見られるものの『財政の崖』への対応次第で、世界景気に悪影響が出ることも考えられます。

又、昨年は、韓国・中国との領土問題が経済へ影響を及ぼし、カントリーリスクを改めて痛感したところです。一方国内では、原子力発電所の稼働状況が低く、火力発電用燃料の天然ガス・原油の調達、加えてEU・中国向輸出の減少による貿易赤字の常態化もあり、景気の減速、不透明感があります。このような経済環境の下、イチネングループに昨年8月前田機工(株)、9月(株)ジコーが新たに仲間入りし、第3四半期より業績に貢献しています。売上高ではケミカル事業、燃料販売事業が前期比で減少、自動車リース事業、メンテナンス受託事業、パーキング事業、車体修理管理サービス事業、中古車販売事業は前期比増加となり、販売数量でも増加しました。

営業利益については、9月14日に第2四半期決算を、12月19日に2013年3月期決算予想数値を上方修正しました。

ホールディングス体制の下、各事業会社の努力により業績につきましては右肩上がりを実現しています。

本年も「環境・安全・安心」を掲げ、10年後に売上高1,000億円、営業利益100億円を実現する為、一層の規模拡大、収益増大を期待し、以下の経営方針で運営して参ります。

1. 各セグメント・事業が連結営業利益の10%以上を稼ぐ事を目指す。
2. コストダウンを図る。

永遠のテーマではあるが、原価及び販売管理費を業務効率の改善を含め、より徹底した管理をする。

グループ各社間でのシナジーを発揮させる。商圏の融通・拡大等を図り、間接部門は協力・努力を惜しまない。

不採算取引の改善で、採算性の向上を図る。

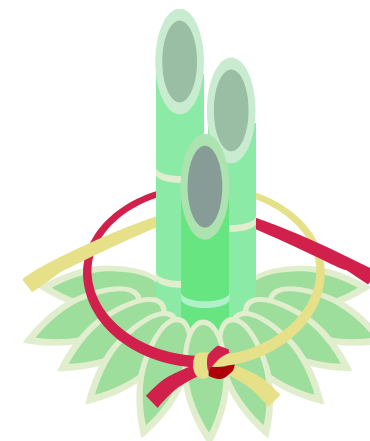
貸し倒れリスクを回避する。

3. グループの財務体質の強化を図る。

財務面の数値目標としては、

中期的に自己資本250億円超、営業利益60億円超、自己資本比率25%超を達成する。

以上の方針をもって本年度の計画を必達し来期に向けて鋭意努力、業務推進中です。



事業別の課題としては、大黒柱の自動車関連事業は、引続き契約台数、契約残高、販売数量の拡大と、適正な利潤を確保する為の各施策を継続実施する必要が有ります。中核事業のケミカル事業は、国内外を問わず販売数量を増加させる為の販路拡大、売上構成の改善が喫緊の課題です。また、既存の製品・商品のリニューアル、売れる製品・商品の開発を着実に実施する事、製造については多様化が必要です。

グループの成長事業のパーキング事業は、管理車室数・管理箇所数の拡大スピードを加速する必要があり、加えて、駐車場の個別採算を向上させるあらゆる対策を講じる事も重要です。

車体修理管理サービス事業は、グループでの存在感を出す為、契約台数を拡大させ、受注台数の増大・確保により連結業績に貢献できる事を目指します。

カーシェアリング事業は会員数を拡大、売上を増加させる事に全力を挙げ、この一年に賭ける必要があります。中古車販売事業は、仕入ソースの拡大による台数確保と利益の増大化、適正な在庫管理を徹底します。

新しくセグメントされた機械工具販売事業は、既存の仕入先、販売先との取引関係を更に強固なものとし、売上の拡大を図ります。

合成樹脂事業は顧客の開拓、品質の向上による更なる差別化を図り、100億円の売上高を目指します。また、新しいセグメントの事業会社は、上場企業グループの一員に早くなる努力をし、既存のグループ会社は受入れる必要があります。

管理間接部門は、グループ全体を見渡し各セグメント・事業会社の運営が円滑に進む様、体制・環境の整備を図りつつ、牽制する立場を維持し、上場会社グループとしての企業価値向上を追求します。

企業経営の最も重要な課題の一つに業績がありますが、全ては人材次第です。積極的に社内外の研修会・勉強会等に参加し、個々人のスキルアップを図り、3年、5年後を想定し、組織・人材が維持・確保できる様、事業会社、役職員は心掛ける必要が有ります。

また、短期、中長期に亘り、利害関係者と良好な関係を保つ為には適正な利益を確保する事も重要です。継続した積極的な企業活動をする為に各事業会社は結束し、規模拡大、収益増大を目指し、熾烈な競争に勝ち、お取引先様・株主様等関係者にグループの存在意義を示して参ります。

経済の先行きが不透明な中、グループ各社、各部門、役職員は、日常業務の遂行により、企業規模の拡大、経営方針を意識し利益創出にも注力しなければなりません。

新規事業につきましては、常に一定の経営資源を投入し、グループの柱に育てる所存です。

最後にイチネングループは、創業以来、お取引先様、仕入先様、役職員等関係のある法人・個人様に助けられた事に感謝申し上げます。

まだまだ発展途上ではありますが、関係各位の皆様には倍旧のご支援、絶大なるご理解・ご協力をお願いし、本年もグループ役職員全社一丸となり、企業の社会的責任を果たし、厳しい経済環境を一步ずつ乗り越え、社業の更なる発展に邁進して参りますこととお誓い申し上げご挨拶と致します。

以上